



明化の教育

2月号（第453号）
平成30年1月31日
文京区立明化小学校
校長 溝畑 直樹

「ありがとう」 感謝の気持ちを大切にしたい

副校長 齋藤 道子



1月22日、23日と、東京は48年ぶりの大寒波に見舞われ、ここ文京区でも積雪20cmの大雪となりました。子供たちの登下校の安全確保のため、教職員はもとより保護者や地域の皆様におかれましては、早朝より雪かきや見守り等で多々ご協力いただき、心より深く感謝申し上げます。

2月を迎え、最も寒さの厳しい大寒の時節となり、再度、積雪に見舞われる可能性もありそうです。引き続き、子供たちの安全確保にご協力をいただきますよう宜しくお願いいたします。

さて、平成29年度もあと2月と3月を残すばかりとなり、6年生の教室に掲示されている卒業までの登校日数は、35日となりました。これまではさほど意識することもなく、毎日学校に通っていた6年生ですが、これから「6年生を送る会」や「謝恩会」などの卒業に向けての行事を経ていく中で、この6年間を振り返りながら、それぞれに「卒業」や「進学」に対する「思い」を深めていくことと思います。今日は、「感謝」という心について少しお話ししたいと思います。

1月26日、本校に2012年リオ・パラリンピック柔道の銀メダリスト廣瀬誠さんが、3・4年生を対象とした「柔道教室」の講師としてお見えになりました。廣瀬さんは、高校2年生の時に目の病気に罹り、2ヶ月でほとんど視力を失いました。しかし、絶望の淵から柔道を通して這い上がり、ひたすら努力し続けることによって、見事銀メダルを獲得しました。その廣瀬さんが、お話の中で、子供たちにこんな質問をしました。「『ありがとう』の反対の言葉って何だと思いますか？」子供たちも私も、なかなか答えが出てきませんでした。すると、廣瀬さんは、「僕はね、『あたりまえ』だと思ふ。」と答えました。「自分は、視力を失って辛いことも苦しいこともたくさんあった。でも、視力を失ったことで、自分を支えてくれているたくさんの人の存在に気付くことができ、いろんなことが『あたりまえ』ではなく、『ありがとう』だと気付くことができた。」と話しました。

この言葉に私は、とても「はっ」とさせられました。そして、何でもあたりまえのように思っただけで生活している私というものが、実は多くの人々の支えによって生き、生かされていることに改めて気づかされました。廣瀬さんは、「視力は失ったけれど、それによって、全てに『ありがとう』と思えるようになったことは、自分の一番の宝です。」と話しました。そして、最後に「人生を楽しく充実して幸せに過ごすための秘策」として次の3つを話しました。

- (1) 感謝の気持ちをもつこと
- (2) やらないで後悔するより何事にもチャレンジすること
- (3)好きなことを見付いたら一生懸命に努力し続けること

6年間慣れ親しんだこの明化小学校を間もなく巣立っていく6年生の皆さん、そして在校生の皆さんに、この廣瀬さんの言葉を是非ともお伝えしたいと思いました。



明化小学校は、今後も子供たちの心身の健全育成を目指し、学校・保護者・地域が一丸となってさらなる教育活動の充実に努めて参ります。皆様におかれましては、引き続き「チーム明化」の一員としてご尽力を賜りたいと存じます。12月には、学校評価に係るアンケート調査へのご協力を有難うございました。1月の学校関係者評価委員会で、調査結果に基づいて長時間に亘って丁寧にご協議いただきました。報告書作成の後、3月に皆様にお知らせ申し上げます。